

議 事 録

会 議 の 名 称	第4回 学校規模学校配置適正化検討委員会
開 催 日 時	平成24年11月13(火) 14時00分～
開 催 場 所	美野里公民館 大会議室
出 席 者	<p>【出席委員】</p> <p>水本徳明 萩原 茂 藤田恵弘 小埜正美 福田智彦 西村浩一 鈴木美樹 中島 淨 沼田マサ 飯島利武 竹内昌信 稲田 弘</p> <p>【欠席委員】</p> <p>村田春男 戸田見成 菊地 稔 小仁所 浩 星野広幸 立原幸子 邊見亜津子</p> <p>【教育委員】</p> <p>中村三喜 沼田 新 澤島照子 本田仁子 加瀬博正</p> <p>【事務局】</p> <p>我妻智光 佐々木 浩 真家 厚 菅谷清美 大枝江梨子</p>
協 議 案 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民説明会の実施方法について ・ その他
会 議 資 料	別 紙 (会議次第、 他)
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 (傍聴者 2 人)

【協議】

(1) 住民説明会の実施方法について

委員長	住民説明会の進め方について、事務局は説明願います。
事務局	【資料1】を使っての説明 ・受付名簿の記入については任意である。
委員	基本方針概要の説明に40分をかけるのは長すぎる。
委員	プロジェクターを使って説明するのか。
事務局	そのつもりである。案は、出来上がっている。
委員	リーフレット以外の資料は配布するのか。
事務局	その予定はない。次第のみである。
委員	今日は説明会の予行練習というか、説明会で実際に使うものを見れると思って来たわけだが、それが無いのはとても残念。よって、今日の委員会を開いた意味が現時点で見出せない。間に合わなかったという話だが、残念である。
委員長	今日は、説明する内容について委員さんから要望を出すという形でお願いしたい。
委員	内容が難しいので、耳から聞くだけではいけない。
委員長	事務局には、プロジェクターを使って説明してもらおう。
委員	学校適正化については、地域差が大きい。事務局が同じように説明しても、地区によって受け取り方が変わってくる。どのような意見が出るのか分からないので、どんな質問にも対応できるようにしておく必要がある。よって、今日は、説明の内容というよりは、事務局がどのような答え方をしたらよいのかを議論すべきではないか。
委員長	どのような意見が出ると予想されるか。
委員	「国や県に言われたからこの事業を進める」という言い方では、強い反発が出る。よって「適正化委員会ではこのように考えます」という言い方がよい。 また、説明会の日程について「半月前に開催日を知らされても、予定が組めない」というクレームが出るように思う。
委員長	国や県が進めるからやっているわけではない、というのがこの委員会の立場であるから、それははっきりさせたい。
委員	ほとんどの方は、市内の学級数や児童数、生徒数を把握していないので、それが分かる資料はあったほうがよいのではないかと。ただ、実際の数値を出してしまうと、数だけを見て統廃合へと話しが進んでしまい、説明会の趣旨が違ってしまふことも懸念されるが。
委員	現在の市内の状況を把握してもらおう、比較してもらうために、数は提示しても問題ないのではないかと。
委員	学校適正化配置のもともとのスタートは少子化からなので、数値を提示して少子化の現状を認識してもらふべきである。少子化だからこそ教育環境や質をどのように確保したらよいのか、ということに話しを進めていかないと統廃合の話になってしまう。

学校に何が求められているのか、子どもに何が必要なのかということを住民の方に示してほしい。

委員 子どもたちの数がどのように推移していくのか住民の方は知りたいと思うので、数を提示してもよいのではないか。

委員長 このように教育環境が変わっていくと投げかけるための材料として、人数や学級数の推移を示す資料を提示するというのでよいか。

委員 数を知らない方がほとんどなので、話し合いの拠り所とするという意味でも、数の推移を示す資料を提示してはどうか。

委員長 以上の意見をふまえ、子どもの数を示す資料を提示することとする。

委員 教育委員の方々は、すべての説明会に出席するのか。

事務局 可能な限り、出席してもらおう。

委員 「教育委員会としてはどう考えているか」と聞かれたら、どのように答えるのか。

委員長 そのことについては、教育委員会ではなく、適正化委員会として考えを示すべきことではないかと思う。よって、教育委員会の姿勢を問う質問があれば、意見を持ち帰り、適正化委員会で議論するという答え方しかないと思うのだが、いかがか。

委員 質問に対しては、共通の返答を作っておくべきである。それを超えるような質問については、適正化委員会に持ち帰るといった答え方ではいかがか。

委員 ある程度は教育委員会で答えて、それ以上の質問については適正化委員会で検討するというのでよい。

委員長 教育委員会として発言すると公式なものになってしまうので、今後の問題だということで、適正化委員会に返していただくのがよい。

委員 住民からは「どうせ教育委員会で既に決まっているのだろう。なぜ今更説明会をするのか」という声がある。よって、「教育委員会ではどう考えているのか」という意見が当然出てくる。教育委員会が何も答えられないというのは納得してもらえないのではないか。あいまいにすると話し合いが紛糾する恐れがある。住民の方には、答申に基づいて、適正化委員会で検討していることを納得してもらいたいが、多くの方は全て教育委員会が決められていると思っている。適正化委員会の存在すら知らないと思う。

委員長 適正化配置の問題について、この委員会や教育委員会が一方的に決定するという事はない。この適正化委員会では、住民の方の意見をいただき、子どもたちのよりよい教育環境をつくっていかうというスタンスで進めてきた。今のご意見は、それが住民のみなさんには伝わっていないということだが、適正化委員会のスタンスが分かってもらえるように事務局には説明してもらいたい。質問が出たら、教育委員会には以上のように答えてもらう。そのやり方しかないと思うのだが、いかがか。

委員 委員長の意見に賛成である。

委員 初めて学校適正化について聞いた方にも、この事業が始まった経緯を分かるように説明すれば、風評的なものもなくなるのではないか。

委員 各学校の人数や学級数は出さないほうがよいのではないか。具体的な数字を出すよりは、住民の意見をたくさん聞くのがよい。

委員 数字を出してしまうと、統廃合へ話しが進んでしまう可能性があるのでは、私も、数字は出すべきではないと思う。

委員 質問を受けたら、適正化委員も答えるのか。

委員長 それはできない。質問は事務局のほうで受けてもらう。適正化委員は説明会に参加して、住民の方の意見を聞いていただくということをお願いしたい。

委員 人数の推移を平成30年まで出すのは、多すぎないか。

委員 少人数では、徳や規範意識を育てるのは難しい。小規模校の校長を経験してみて、やはり少人数では教育が成り立たないということを実感した。地域の人たちにとっては、学校がなくなってしまうという思いはあるだろうが、現実を知ってもらう必要がある。ただ、言い方として「今より良い教育ができる」というような希望を与える説明をしてほしい。住民の方に「このように変わるのならいいね」と言ってもらえるような説明を望む。

委員 賛成である。ただ、説明の仕方はとても難しい。小規模校を批判するような話の進め方ではなく、将来に希望が持てるような説明会を望む。

委員長 これからの教育のあり方、もっといい教育をしていくという所を説明の出発点としたい。そうすれば展望の見える説明になるのではないか。

委員長 学校規模の数字を提示することについて、意見はあるか。

委員 いつでも出せる用意をしておけば、全体に出す必要はないのではないか。

委員 市内の学校全てのデータを出すのではなく、説明会を実施する地区ごとに出すのがよいのではないか。

委員 そうなると、資料として提示するまでもないので、口頭での説明でよいのではないか。

委員 みな現状を知って、これからどうするのかを議論したいと思う。

委員長 意見をふまえ、学校規模のデータを示す資料は配布せず、平成30年までのデータを質問があれば口頭で答える、ということにする。

委員 校長先生にお聞きするが、保護者から学校適正化についての質問を受けたことはあるか。

委員 私の学校では全くない。むしろPTA総会の際にこちらから投げかけた。よって、保護者からどのような意見が出るのか見えないし、統合ありきではないので、今回の説明会は、住民からの意見を聞くという会になると思う。ただ、住民説明会開催の通知があつてからは、関心が高まりつつある。

委員 私の学校でも、全く話題にあがらない。

ただ、小規模校区の住民の中には学校が文化の中心という思いがあるので、学校がなくなったら地域の中心はどこになるのかという不安を抱えている。地域の人が集まるのは学校行事がほとんどということもあり、小規模校の住民にとっては学校という存

在がとても重要である。

委員長

中には「お金のためにやっているのだろう」という意見が出る可能性があるが、それは違うということを事務局にはっきり答えてもらう。

委員

学校が廃校になった場合に、跡地をどのように利用するのかという意見がある。

委員長

学校を中心として地域の人たちがつながっているという現状がある。単に子どもたちの教育の問題だけではないので、そのような観点からも意見は出ると思う。この委員会でも、跡地利用については重要であると議論してきたが、そこも含めて地域の人に考えてもらう。どのように使いたいですか、もし学校として残す時には、どのような残し方がありますかというように、そこも含めて議論いただきたい。質問された時に、「どうしたいか考えてほしい」と住民の方に聞き返すのもよいのではないかと。

委員

冷暖房設備が完備されていたりと、学校設備は立派なので、跡地は福祉施設に利用できればよい。

委員長

広く学校のあり方を議論できればよい。

委員

どんな意見が出るか分からないから、まずはたくさんの意見を聞いて、返答は適正化委員会に持ち帰って検討するということがよいのではないかと。

委員長

最後に、説明会での適正化委員の座席であるが、どうするか。

委員

場所によって、出席する適正化委員の数に差が出るとよくないから、予定を調整したほうがよいのではないかと。

委員長

基本は、自分の住まいの地域に出ていただくことになるが、今調整するか。

委員

前に座ってしまうと、質問を受ける可能性が高いが、適正化委員会として意見が統一されていないため、委員は質問に答えるべきではない。よって、座席は一般の席でよい。

委員長

適正化委員さんは、一般席の前のほうにかたまって座っていただく形でよろしいか。

委員

もし、適正化委員に質問が出た場合には、答えてしまってよいのか。

委員長

全て教育委員会に答えてもらう。適正化委員は質問には答えず、適正化委員会に持ち帰って、全員で検討しますという形で統一をお願いしたい。

委員

質問や意見は、記録に残るのか。

事務局

12会場全てで録音して、議事録のような形で意見を取りまとめる。

委員長

では、事務局のほうで事前に参加できる適正化委員を把握してもらいたい。

委員

スクールバスの説明については、統廃合が前提という印象を与えるので、説明を求められた時にだけ答えればよいと思う。

事務局

適正化委員は、一般席の最前列でよろしいか。また、委員はかたまって座っていただいてよろしいか。

委員

委員は後ろから全体を見れた方がよいので、後ろに座るのがよい。

委員長

校長先生方は意見を求められると思うが、校長や教師という立場で答えていただきたい。

委員	次回の委員会はいつごろになるか。
事務局	説明会の意見を集約して、全員協議会へ報告する予定なので、その前後に適正化委員会を開きたい。12月半ば～後半くらいの開催を予定している。
委員	教育委員は前にいなくては駄目である。また、説明会開催校の校長は前にいるべきである。
15：30 終了	